



### 劔岳 登山の記

BN 878 行村 豊喜

進 隅 廉 題字

### 第 64 号

報 告 会 会 員 会 報  
部 門 体 育 大 学 治 明  
部 門 ワ ン ダ ー フ ォ ー ゲ ル  
会 員 会 会 員 会 報

「俺も行くよ」ということになり早速富山出身で石川県在住の関口君に連絡。一緒に登ろうということに決まりました。二人とも劔岳経験者で願ってもない同行者を得たのでした。

コロナウイルスのため一年持ち越して本年九月緊急事態宣言発令中ながら、ワクチン接種はもとよりオリンピック並みの感染防止対策をとって決行することとしました。

九月四日福岡空港から空路小松空港へ、プロペラ機で約一時間三〇分と意外に北陸は近い。空港に迎えに来てくれた関口君とはいつ以来かも覚えていないほど久しぶりの再会でしたが、すぐに学生時代に戻りました。(ただし容姿はそれなりにです。)

翌早朝、関口邸を出発し立山アルペンルートにバスに乗り込む。天狗平辺りで突然快晴の空をバックに岩の殿堂劔岳が三角錐の雄姿を見せてくれました。想像に違わぬ圧巻の劔岳初見参です。

室堂から登山開始。三人とも快調？に立山三山、真砂岳を過ぎ別山は余裕(笑)で巻いて十五時劔沢小屋に到着。ここで同期の小林女史(旧姓奥田)と合流する。今回のため丹沢で月一のトレーニングを積んできたそうです。

明日に備えて全員早々に就寝。関口、佐藤

両君がすぐに寝息を立て始める中、緊張感からか中々寝付けないまま朝を迎えました。午前四時出発、ヘッドランプを頼りに一服劔の登りへ。連続する鎖場に緊張しつつ前劔の鉄の橋を渡る。平蔵の頭をトラバース、いよいよ難所で名高いカニのタテバイに取りつく。鎖と足場を確認しながら三十M程の垂直の岩壁を全員慎重に登りきり、四時間弱ようやく祠の立つ劔岳山頂に到着しました。

山頂は陽光が差すもののあいにくのガスで展望はきかず、それでも点の記ゆかりの三角点に触れることができ満足です。下りはさらに慎重を期して三時間余り、無事正午に小屋到着。雲の切れ間に山頂まで姿を現した劔の



劔岳山頂

♪「劔の尾根の ふもとの  
白萩の流れイワナが泳ぐ  
一度おいでよ我が馬場島へ  
おおハイヨーおおハイヨー  
おおハイヨー 鳴るはー  
雷々ヨー 雷々ヨー」  
早朝の劔岳の頂きに響き渡る同期関口君のさわやかな？歌声……。現役時代飲んで聞いていた彼の歌を本場劔岳の山頂で聞ける日が来るとは。

令和三年九月六日午前七時四五分、長い間憧れ続けてきた劔岳山頂に立つことができました。新田次郎著「劔岳 点の記」を読みつつか登ろうと思いつつ仕事や生活に追われ、また九州に住む者には遠いこともあって、いつしか四十年が過ぎていました。

昨年定年退職を間近に控え、時々仕事で九州にやってくる同期の佐藤君に話をすると

圧倒的な岩峰を目の前に早速ビールで乾杯。最高の味でした。

学生時代から四十年、今でもあうんの呼吸で一緒に登山ができる同期がいてくれること。これもMWVが培ってくれた四年間の賜物だと感謝しています。念願の劔岳登山を終え来年からはアルプスの山々を中心に少しずつ登り始めようと思っています。同期の皆さんよろしく。

♪(二番)

「劔の山のふもとの

黒部の流れヤマメが泳ぐ

一度おいでよ我が劔沢へ

おおハイヨー・・・」♪

今も頭の中で歌がリピートしています。

登頂から早三ヶ月、あの時を夢のように思い出す今日この頃です。

(なお彼の歌をお聞きになりたい方はYouTube「劔の歌VER.2」からどうぞ)

## 卒業から丁度五十年

BN 710 関川 正博

コロナ禍、医療関係者をはじめエッセンシャルワーカーの方々に感謝しステイホーム、昔のことがやけに思い浮かぶ。手白沢、草津小屋の囲炉裏端 何処かの幕営地。歳のせいかな。

薫風は毎回多少目を通す程度だが、717住田君の寄稿文『夏合宿』を読み、思わず記念へ



ナントを取り出し見えていて、分かる人が僅かでも小生の駄文を一度は投稿したくなった。

あの夏合宿、五班二年部員として参加。宗谷本線音威子府駅の隣、箴島駅から天塩川支流の頓別坊川を遡りペンケ山(716m)に登り天塩中川駅に出て列車移動、下沼駅パンケ沼からサロベツ原野を横縦断、音類・稚咲内を経て豊富から兜沼に移動、宗谷本線で名寄に戻り深名線乗り換え路之台BCに向かう。(四年生が実際の地理・メンバーの状態・悪天候などから連日コースを討議指示された結果であって予定からは大きく変更された) 覚えていた事、巨大な路・雨の中の藪漕ぎ根曲がり竹の上をいかに歩くか・木に残る真新しい爪痕熊の気配米は腐り非常食(バターココナッツBS)の使用・サロベツ原野の真っ暗闇・稚咲内小学校の校庭借用時に頂いたウモロコシの差し入れ・豊富へのロード途中、

見かねた土地の人に声掛けられストープにあたらせてもらった感激etc.

北海道合宿での五班は四年生だった中島・牛田・福田諸先輩、同期だった森・木本君も鬼籍に入ってしまったし又、一年生五人は全て退部し、あの凝りまくったコースの企画経過は知る術無し。

ハイキング好きだった家族に連れられ奥日光戦場ヶ原などを歩いた時の快適な記憶から入学後、結局ワンダーフォーゲル部に入ったものの下級生では体力面、上級生になつてからは精神面で常に悩ましい日々だった苦しい出ばかり。一体何だったのだろう。

我が代のリーダー養成も凄かった。重いザックを担げる奴がエライのか、重いのが快感だった!?

覚えていた事、家を出る時測ると42kgのキスリング(当時の体重50~51kg)・小幽沢の滝廻行・会津朝日岳の頂上直下岸壁・丸山岳の巨大な山塊・小生は早々と途中下山となつてしまい、降り続く雨・そして解散式での切ない想いetc.何年にもわたり、同期会でその話題になると早く終わってくれと思う一方、その後、会津朝日岳登山口や南会津小立岩に行った時は望郷の思いが巡った。

果たして自分は本当にヤマが好きなのか、過酷な合宿を共有する部員が同じ釜の飯を食ったというだけでどうなのだと思うようなところがあった。むしろ部を通して行うことが出来た体育会本部役員及び大学駿台祭実行

委員での幅広い体験が部活動自体を客観的に見る機会となった気がする。

卒業して尚いつまでもOB活動や山行を続ける事への共感が湧かない時期も長かった。しかしいつの頃からか、あの多感な時期、時代に過ぎた時間や仲間が自分の大きな糧となっていることに気付いた。あの時の苦しさを思えば大した事ないみたい。大袈裟に言うとなんげのお陰で今の私があるみたいな。

八年前、同期の上野君が亡くなった翌年の初夏、彼との思い出の地の一つ奥南会津檜枝岐から尾瀬御池に入り、本当に山が好きだったのか確かめたいような気持ちで、燧岳登山口から池塘の思い出に誘われるまま広沢田代、熊沢田代まで登り、結局40数年ぶりに天気に恵まれた燧岳山頂から尾瀬沼、尾瀬ヶ原の絶景と学生時代のホームグラウンド奥鬼怒の稜線を見飽きること無く眺め続けた。山についていいなー、自然はいいなー

以来丁度、流行っていた日本百名山をインセンティブに、山道具が機能進化軽量化したことや山情報取得がし易くなったことに支えられ、84座迄登ったところで自粛停滯。古稀を過ぎて二年、卒業から五十年経ち記憶もおぼろになってきた。

想像以上の時代変化に不適應感あり、「なため」を口ずさみ、脈絡なく脳裏に現れる若き日の場面、それらを糧に前向きな気持ちの維持に努めているこの頃。コロナの終息を願

う。

### 追記

路之台BCの足跡を平成二十八年七月に同期九名で尋ねたが痕跡何も無く記憶戻らず  
(薫風53号で同期杉山君投稿)

## 「道程会」と私

BN 326 服部 正

それは突然の事だった。十月の或る日、一本の電話が入った。同期のG氏より「薫風に、一筆書いて呉れ、との事だった。我が同期には多士済々の面々が揃っており、「どうしてこの俺が」と一瞬耳を疑った。勿論そんな器にあらず、とお断りしたが、渋々折れてしまった。

先づは、表題の「道程会」、決して、ドゥティ会などと青くさい読み方ではないでほしい。卒業と同時に結成され、二十一名でスタートした。今年で六十四年になる。初めの頃は在京諸氏の飲み会だった様だが、全員に声を掛けたら、と言つ事になったと聞いている。その第一回が平成三年十月五・六日に熱海の旅館「水口園」で開かれた。参加者は十四名だった。三十三年ぶりの再会である。それなりに容姿は変化していたが、同じ釜の飯を喰った仲である。あの顔、この顔、忘れる筈はない。笑顔の満開である。うまい酒と料理に酔い痴れ、その夜は大いに盛り上がった。

翌日は再会を誓って、三々五々帰宅した。その後は年一回、夫人同伴での観光旅行が恒例となった。これまでに九州から東北まで二十回位開催されていると思う。そんな中で特に思い出に残るのは、新人時代の夏の合宿地、奥日光、光徳沼牧場へ行つた事だ。その当時は、中禅寺湖から戦場ヶ原を抜け光徳沼までの長い道、重いザックを背負つての難行苦行、沼に着けば、いきなり飯の支度、正に「新人哀歌」の歌詞そのものであった。時が経つた今は楽しい思い出として残っている。一方、



道程会メンバーと大内先輩（前列中央）

大変残念な事は、本年迄に十名が鬼籍に入っただ事だ。大活躍した連中はかなりなので寂しい。ご冥福をお祈り致します。高令となった今、会の活力も半減したが、横浜在住のS氏の計らいで十数年前から「しつまい」のK軒の宴席で昼食会を開く様になった。各地より夫人共々、毎回十数名が出席している。出迎えてくれるS氏ご夫妻のほっこりとした笑顔が、たまらなく嬉しくて、一変に幸せな気分になる。と同時に仲間から「元氣」を貰う。

こうして一年くが過ぎて行く。この二年は「コロナ禍」で開催されていないが、来年はきつと開かれる事だろう。

私にとって、年一回の「道程会」は、単に同期の連中に会える事だけでなく、一つの峰の様に感じられる事だ。一つ越したら次の峰、いつまで続くか解らない遠く長い道程を経て頂上に立った時、過ぎて来た峰々を眺め、よくぞこゝまで来たものだ、と感慨に耽ける。これからも「道程会」から貰った「元氣」を糧として、その先に見える峰を目指し老妻と共に、トボトボと歩き続けて行くことと思う。

## 最近の「ソロキャンプ」事情

BN 871 平田 正博

半年ほど前、流行りのソロキャンプとは何ぞやと思い立ち、飯能辺りのソロキャンプ場に目星をつけてザックにテントとシュラフを詰め込んで出かけてみた。

山も歩かず当日午後1時ごろキャンプ場に到着し、さてどこにテントを張ろうかと思回すと、平日の為か場内は先客がハンモックを吊って一人寛いでいるだけで後は無人である。



こちらはなるべく距離をとって、先ずは寝心地のよさそうな場所にテントを張って用意を始めたのだが、よく考えてみれば単にサイトワークを一人でしているだけのことで面白くもおかしくもない。

ここまで何が良くてソロキャンプなるものが流行っているのか判らぬまま、することもないので明るいうちから焚火をはじめてみた。そのまま5、6時間ほど火を絶やさぬように薪をくべるだけという時間を過ごしてしまったのであるが、実に時間の過ぎるのを忘れてしまいうくらいに炎の揺らぎに心の癒しを感じつつ病みつきとなってしまうた次第である。

この時以来焚火を友として関東のあちこちのキャンプ場を訪ね歩いているのであるが、場所によってはインディアン集落かと思まうばかりの流行りの三角テントが勢揃いしていたり、ゲリラの前線キャンプみたいなこれもまた流行りの兵隊さん仕様のテントの集団が居たりするので、老キャンパーが愛用しているドームテント張りでは肩身が狭いような、ちょっと居心地が悪い思いがしているのも事実である。

しかし足腰弱った老ワンダラーとしては山歩きも儘ならず、かと言って文明に蝕まれた都会暮らしに飽き足らず、落ち着きところがソロキャンプということになりましたので、どこかでお会いしましたら温かい目で見守っていただければ幸いです。次第であります。

\*お願い…誰か関東近辺で焚火のできる別荘をお持ちでしたら招待してください。

## ロードバイクはじめました

BN 822 大倉 正敏

ロードバイクとは、元々レース用に作られた空気を抵抗を減らす前傾姿勢、加速しやすい軽いフレーム、摩擦を減らしスピードが出やすい細いタイヤを装着した高速で長時間走れる自転車である。高校時代にクラスメイトからフレームだけを譲り受け、カスタマイズした当時はサイクリング車と呼ばれたが、それ以来のスポーツタイプである。加えて今回は輪行（専用の袋に入れ電車等に持ち込む）できるタイプで、前輪が簡単に外れる、重量は約18キロである。元来、東京自動車不要と考えていましたが、船橋に転居し、便利快適な足として運動不足解消、足腰の強化のためロードバイクの購入に至りました。現在も子供たちにサッカーを教えているので脚力には自信もあり、視力なども健全ではあるが何せ66歳、無理は禁物と戒めての船出である。

BSで放送されている「こころ旅」をご存じでしょうか？かつてのプレイボーイ火野正平72歳がロードバイクに跨り、送られてきた手紙の文面に沿って旅をする番組である。有名観光地でもない通りすがりの中に全国津々浦々、変化のある美しい豊かな風景があることを知らされた次第です。

ここで、ワンダラー的ロードバイクを提唱したく思います。

- 一・首都東京圏などは走らず、輪行すべし
- 一・装備は軽登山に準ずる山用のヘルメットとザック、万が一の時、身を守ってくれ

- 一・地図・コンパスは携行し、田舎道に迷い込み、彷徨（ワンデリング）するべし
- 一・少人数（理想は単独）で気の向くままにゆっくりと走るべし

しかしながら家を一步出れば、想定外の出来事は起こるもの。全ては自己責任、自分の体力・気力・年齢・体調に合わせて万全の備えをもって臨みたいものである。

去る十一月下旬、三重県津市美杉町（たけなう）に住むワンゲル同期を尋ねる自転車旅を決定。名張市を起点に県道三六八号を南下、一旦奈良の峠を越えた後、津市へと向かう約八十キロのツーリングであった。

11月27日 名張駅が起点、二百Mの標高差があり登りがほとんど。低速ギアを使うが長い坂では息も絶え絶えに喘ぎながらも、分岐では地図、慎重にルートを選択。ダムサイトや山村の風景を楽しみながら迷うことなく到着。

11月28日 今回の訪問の主な目的は大工作業の手伝い、休憩場所には薪ストーブがあり、火熾しに奮闘、煙に燻される。夕餉では昔話に華が咲き、○秘話も。素直に懺悔が出来る年齢になったと知らされる。

11月29日 霜が降りた寒い朝、雲一つない快晴である。峠まで僅かな上りあと、急な下り坂。ペダルを少し踏んだだけで急加速、60キロは出ただろうか、恐怖さえ覚える速さだ。ブレーキを有効に使用して減速、前方の路面に集中、少しの凹凸でもハンドルを取られたら命に係る事故になるだろう。名松線が並行して走る雲出川沿いの山道、紅葉の渓谷に光のカーテン舞い降り美しい。傾斜の緩い快適な下り坂はあまり長くは続かない。小春日よりの中に収穫の済んだ田圃が遠くの山まで広がる。あとは平坦な道だが、なかなか津への標識が現われない。何故なら、もう既に津市の中にいるからであった。小一時間走るとやっとな津への標識を発見。道が拡がり片側四車線道路になると嗅覚を起動させる。近鉄線津駅



前にある名物のうなぎ丼が旨いと聞いていた。蒸さずに焼く関西風、初めだが濃厚で美味しかった。自転車を輪行袋に入れる作業は手間取ったが、あとは千葉までの車中で大きな荷物を運ぶ算段が気になる。電車の揺れ中、無事に走り終えた安堵感と少しの達成感に満たされる。次は何処に行こうか？

「ブイチ」だな へばな（津軽弁）  
 〈編集部注〉文中の「美杉町太郎生に住むワンゲル同期」が次の中野さんです

## パーキンソンと共に生きる

BN 828 中野 吉長

パーキンソン病を発症して14年が過ぎた。なかなか病と向き合い受け入れることができないまま、時は過ぎた。薬の量が増えていきジスキネジアが起こるようになり、食事がしにくくなり、上半身を椅子に括り付けて動きを止め、食事をしたときもあった。精神的にも肉体的にも辛い日々であった。

その後、DBSの手術を受け、症状が劇的に改善した。食事も落ち着いてできる、言葉もちゃんと伝わる。少し前向きになった。

しかし、病は進行している。自分には時間が無い。という現実も突き付けられる。

自宅を自分の手で生き易いように改造しようとして、まず、山に松杉の木を切り出しに行った。危険なことだが、今ならまだ、チェーンソーが使える、今のうちにと体が動く。

その木で自宅の壁・天井・床に板を張っていく。段差の多い田舎の家。床を上げ、段差をなくす。いすれ車椅子生活になっても暮らし易いようにと手を入れる。あちこちに手すりも付けた。

この病の悪いところ、やり出したらやめられないことも。深夜に及ぶこともざらだ。出来栄は二の次、やらずにはいられないのだ。家じゅう板張りになった。暖かくなった。最近、足がもつれよく転倒するようになってきた。コンクリートのたたきだと、さぞ痛かったであろう。でも板張りのお蔭で痛みは軽減されている。いいこともある。自分のためのリフォームだ。まだまだ、手を入れるところはある。病に負けくじける時もある。でも、日々、前を向いて、こけながらも、この足で



作業の合間にくつろぐ中野 OB

歩いていたいと思う。庭にパーベキューハウスも建てた。友を呼び楽しいひとときを過ごすためだ。コロナ禍でその楽しみも先延ばしとなっている。コロナ収束を一日でも早く願う毎日です。

## 夫婦で単独で登山を楽しむ

BN 864 浦田 創

妻が60歳で定年退職した記念に、夫婦で登山旅行に出かけるようになった。体がポンコツになったことでマラソンは卒業し、登山やウォーキングに興味に移った。

登山に目覚めるきっかけは、妻が職場で北アルプス登山に誘われたことで、妻が好日山荘で登山靴を購入する際、「ご主人も履いてみませんか？」と促され、シリオの登山靴が私にピッタリで、眠っていた登山魂が何十年ぶりに目覚めたのである。

その後、夫婦で5月や7月の連休を利用し、百名山の鳥取県の大山、四国の石鎚山、福島県の磐梯山、山形県の鳥海山、岩手県の岩手山等を愛車の軽自動車で車中泊しながら登山旅行に繰り出した。下山した後のお楽しみは、日帰り温泉や地元の名物を堪能すること。全国を回るのが至福の時間なのだ。

私が60歳で退職した時から、百名山だけでなく、二百名山、更には三百名山まで手を伸ばし、2021年12月末で百名山97座、二百名山90座、三百名山94座の合わせて

281座を踏破するまでになった。現在NHKのBSPで放送中である田中陽希のグレートトラバースも刺激になっている。コロナ禍で移動がままならない期間中は、地元の静岡百山89座や山梨百名山94座を巡った。

妻は退職後、開口一番「北海道に行きたい」。行先は、緊急事態宣言明けの7月、北海道の百名山である利尻岳、大雪山旭岳、十勝岳に決定。交通手段は今までなら愛車だったが、今日は熟慮の末、飛行機+レンタカーに決定。出発は静岡空港から札幌丘珠空港へ。札幌でレンタカーに乗り換え、一路道北の稚内へ。ここでフェリーに車ごと乗船し利尻島へ。

翌日は早朝に利尻岳に登山開始。先導する私を後ろから「もっと速くていいよ」とせっつつかれ、順調に8合目の長官山に到着。9合目の急登を難なく過ぎ、標高差1500mの頂に立つ。コースタイムの8掛けの速さだ。少しガスがかかり展望は効かなかったが、写真を撮りすぐ下山。下りが苦手の妻の事をすっかり忘れ、いつもの調子で下ったが、案の定、慌てた妻が脚を滑らせ膝を傷めてしまった。何とか登山口までゆっくり下ることができた。

後で判定することだが、妻の怪我は右膝側副靭帯損傷で、完治まで5か月を要した。今は日常生活に支障はないが、登山は当分の間は無理だとのこと。翌日も膝の痛みが引かなかったので、稚内市の整形外科にかかり、松葉杖を使う羽目に。7日間の予定を急遽5日



利尻山頂

間に変更し、帰りの飛行機の予約やレンタカーの変更も余儀なくすることとなった。夫婦会議の結果、道央の大雪山旭岳と十勝岳に単独で登る代わりに、富良野のラベンダー畑を観光することで了解を得た。

8月にも妻との登山旅行を計画していたが、やむなく断念した。自分勝手ながら、もう一度北海道登山を提案したところ、不承不承了解をもらい、妻の気が変わらないうちに私一人、再び機上の人となった。

今回は道央の未踏、百名山最難関の幌尻<sup>ほろしり</sup>岳、大雪の奥座敷であるトムラウシ山、蝦夷富士の名で親しまれる羊蹄山の3座だ。幌尻山へのルートは、新冠<sup>にいがふぶ</sup>田中陽希コースを選択。出発点にはグレートトラバース登頂記念の石碑がある。登りの18kの林道を、水と食料3日分を担いで歩かなければならない。野

山の水はエキノコックスに要注意だ。札幌でも30℃以上の猛暑が10日以上続く中、このコースはアブの襲撃にも覚悟しなければならぬ。しかもここはヒグマの生息地。常に声と笛の音を出しながらの緊張の連続だ。

新冠幌尻山荘に1泊するとここから山頂までは苦にはならない。下山して山荘にもう1泊する2泊3日が標準だが、私を含めて単独登山者は大概一気に林道を又18k下る1泊2日を選択する。ともかくにも我慢のコースなのだ。

ようやく下界に戻り、日帰り温泉で疲れを癒し、新冠観光協会で登頂証明書を購入することができた。この勢いで、トムラウシ山と羊蹄山に登頂できたが、予想外の暑さには辟易した。

百名山も残り北海道道東の羅臼岳、斜里岳、阿寒岳の3座を残すのみとなった。但し、同居の両親が90歳以上の高齢者でかつ介護者になったこともあり、介護施設と調整しながらの登山となる為、今までのように自由に山行ができる訳ではないが、いつでも挑戦できる体作りを怠らないようにしなければ。

※ ※ ※ ※ ※ ※

追伸 薫風第63号に投稿された「三百名山完登を目指して」のBN77山田 哲さんは私と同郷（静岡県焼津市坂本）で、なおさら私のポイントな心身を刺激するので、勝手ながらよきライバルと自認している。



BN.1216 川澄 剛史

東京湾で釣った  
クロダイのバエリア。  
美味しくいただきました。

2021  
9月11日  
川澄

# ワンダラ の フォト日記



2021  
9月27-29日  
大倉

BN.822 大倉 正敏  
同期の田住、宮崎と9月末に過沢に  
行って来ました。  
私一人バテバテでした^^)

2021  
11月2日  
和賀井



BN.817 和賀井 英雄

南会津町の隣り町、  
下郷の猿楽台蕎麦畑で撮ったものです。  
昨年から下郷町で100坪の農地を借り、  
毎週土日通って野菜を作っています。



2021  
11月23日  
上原



BN.1115 上原 誠

数十年ぶりに、一つ上の先輩と近郊の山へ…  
今後もポチポチこのようなことを増やしていきたいです。

2021  
12月28日  
大村



BN.1086 大村 研

海外気分を味わいに日比谷の香港飲茶店へ  
行きました。先頭の赤い服が大村です。  
入店まで行列 20分待ち！





BN.879 井上 稔也

下北半島を旅して恐山に初潜入。  
でも秋晴れで風もなくポカポカ陽気…  
ちっとも恐ろしくなかったです (^\_^)

2021  
10月25日  
井上(稔也)

BN.751 諏訪本 充弘  
道志村でオリンピック自転車ロードレースを応援。  
一瞬で通り過ぎる。



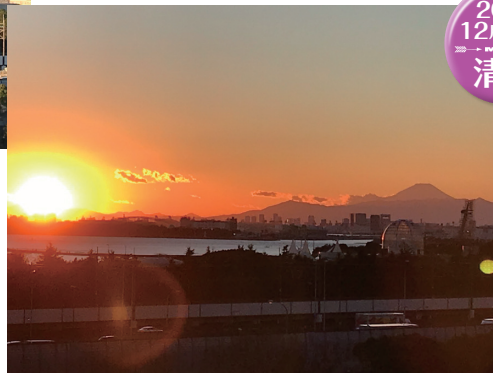
2021  
7月24日  
諏訪本



BN.1075 清水 晴日

毎年冬になると、天気のいい日は我が家の  
ベランダから朝夕富士山が拝めます。  
山から観る景色とはまた違った趣きがあり  
楽しんでます。

2021  
12月18日  
清水



1



3



2021  
12月29-31日  
井上(堅一)

2



BN.1064 井上 堅一

奥鬼怒山荘の雪下ろして旨かったもの  
BEST3  
3位 植木家自家製梅干・沢庵・白米と  
煮込んで二日目のおでん  
2位 植木家自家製べにはるかの焼いも  
1位 諏訪本監督作牛スジ煮込+  
ネギ・ピーマン・卵とじ炒め丼

# 情断会のある日の出来事

(11月7日 高水三山)

BN 778 宮澤 邦雄

70近いおっさん達が、おそろのTシャツを着て山に行くかね。はずかしい、照れくさいはた又、あやしい新興宗教団体、放置自転車の監視員、ゴミひろいのボランティア等、あやしい集団と疑われるなどの理由から、前日までおそろはやめようと決めていたのだが、かみさんの「何はずかしくてんの。そんなの着たくたってみんな着れないんだよ、わかってんの！」と言う強い言葉に流されて、おそろのTシャツをやっちゃいました。

正直どこでも良かった訳で、コロナでなまった体と精神を奮い立たせる事が一番の理由で集った訳であります。別にコースは単純安全で、我らにしてみれば、裏山散歩感覚であります。詳しいコース説明は、ガイドブックでも読んで下さい。山行途中の話題も「なんで山のウェアはこんなに高いのか」とか「ハデなウェアを着た女性は、しっかり顔を見て歳を確認しろ」なんて、たわいもない事ばかりであります。要は、人間そんなに歳をとったからと言って、人間的成長は比例しないんだなあという事かもしれません。

雨も降らず、ケガも無く、久しぶりに青春にもどれた時間に感謝できた、すばらしいワンデルングでした。おしまい。



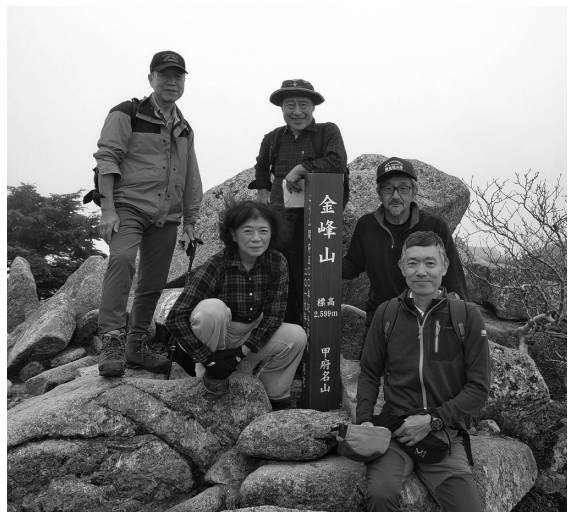
■ ため会73回金峰山ワンデルング

2021年10月15日

参加者

- 505 椎橋 2120 鈴木
- 775 小田野 838 龍
- 845 加藤
- 859 丸山
- 897 山下
- 661 大賀
- 705 杉山
- BN 838 龍 君江

新型コロナウイルスの緊急事態宣言が解除され、1年7か月ぶりになため会Wを挙行できた。



当日は塩山駅に8時半集合し、タクシーにて大弛峠に向う。快晴を期待したが、生憎大弛峠は厚い雲に覆われている。しかし、紅葉の季節でもあり、駐車場は満車状態で老若男女多くの登山客がいる。準備後、9時50分出発。樹林帯を進むと急な登りとなり、登り下りのうち9時半朝日峠に到着。道標が無ければ、気づかずに通り過ぎてしまいそうな場所だ。更に登ると、稜線に出て視界が開けてくる。立ち枯れ木の間の広葉樹が色づいているが、今年の気候が不順で色は良くない。葉をおとしたナナカマドの実が鮮やかだ。下ってくる人が増え、後から来た若者達が軽快な足取りで我々を追い越して行く。狭い尾根道な

ので譲り合いで時間が取られる。朝日岳頂上手前一瞬左手に展望が開け日が差しこくる。11時20分朝日岳到着。頂上から南アルプスの方は雲が切れ山々が望まれる。金峰山の山頂や五丈石も見えるが雲が早く流れているのがわかる。ここで少し休み、ガレ場を下った鞍部で昼食とする。12時20分。ここで予定時間を超過している為、このペースでは大池峠のバスに間に合わないかと判断し、二班に分かれ、椎橋、鈴木、小田野先輩はこのまま引き返し、残りのメンバーで頂上を目指すことにする。鉄山を巻いて進むとハイマツ帯の登りとなる。稜線に出てからはハイペースで登る。ほとんど霧が濃くなり、道以外景色が見えなくなる。平坦な石ころの道から一気に登ると、金峰山頂上。全然視界が効かないうえ、ここで13時なので、休まず五丈石に向かう。少し下ると五丈石だが、霧でぼんやりとしか見えない。少し登ってみるが、岩が濡れて滑り易いので、すぐここを後にして、引き返す。霧は相変わらず濃く、雲霧林のように樹木から水滴が落ち、道が濡れて滑りやすいので、注意して下る。朝日岳を過ぎるあたりから薄日が差してきて遠くの山々が見えるようになる。15時半大池峠着。先着しているはずの先輩達の姿がない。探し回って、大池小屋で発見。ビールを飲んでいたらしい。予定通り、バスとタクシーに分乗し塩山に向かう。塩山で、男性は温泉に、龍はそのまま帰路に就く。皆様ご苦労様でした。

■ ため会ワンデルングの今後の予定

- 2022/2/19 第75回 秩父
- 2022/5/21 第76回 榛名山
- 2022/7/16 第77回 霧ヶ峰
- 2022/10/15 第78回 天城山
- 2023/2/18 第79回 行先未定

※お問合せは左記アドレスの企画振興部宛に願います(企画委員全員へ転送されます)。  
 org.natanekeai@kakeu

電話の方は左記担当者宛に願います。

BN 859 丸山貞一 090-8348-13032

■ 2021年12月奥鬼怒山荘ワーク報告

参加者 12月29日〜12月31日 (2泊)

- OB5名
- 705 杉山 751 諏訪本 775 小田野 846 植木 1064 井上
- 現役4名
- 4年 佐藤 3年 高橋(尚) 2年 成林・佐々木

報告内容

- 新雪フッセルで手白沢温泉から小屋までは2時間強を要した。
- 屋根の積雪は50cm程、安全を確保しつつ雪を下ろし除雪を行った。
- その他小屋内小修理、小屋への薪運び入れを行った。
- 発電機は順調に稼働していた。



費用	
小屋代 (OB ¥1,000 × 2 × 5人)	¥10,000
小屋代 (現役 ¥500 × 2 × 4人)	¥4,000
入浴代 (¥400 × 9人)	¥3,600
プロパンガスチャージ	¥6,000
手白・加に湯への 土産、駐車料	¥4,760
合計	¥28,360

〔新執行部紹介〕



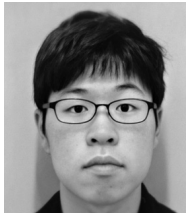
篠田 典佳  
(しのだ ぬみか)  
会計、4班 SL、編集・広報係チーフ  
法学部法律学科  
野田学園高校  
山口県出身



井上 遼大  
(いのうえ りょうた)  
主務、3班 SL、手白係チーフ  
政治経済学部政治学科  
芝高校  
神奈川県出身



田口 和巳  
(たぐち かずみ)  
主将、4班 SL、装備係チーフ  
理工学部情報科学科  
東京工業大学附属科学技術高校  
東京都出身



遠藤 健  
(えんどう たける)  
4班 PL、針生係チーフ  
文学部心理社会学科  
八千代松陰高校  
千葉県出身



佐藤 泰雅  
(さとう たいが)  
3班 PL、手白係チーフ  
政治経済学部政治学科  
都立立川高校  
東京都出身



高橋 和希  
(たかはし かずき)  
2班 PL、手白係チーフ  
文学部心理社会学科  
県立宇都宮東高校  
栃木県出身



佐々木 竜聖  
(ささき りゅうせい)  
1班 PL、手白係チーフ  
文学部史学地理学科  
明治大学附属中野高校  
東京都出身



水戸 敦久  
(みと あつひさ)  
2班 SL、トレ係チーフ  
政治経済学部経済学科  
都立青山高校  
東京都出身



窪田 大地  
(くぼた たいち)  
1班 SL、編集・広報係チーフ  
文学部史学地理学科  
県立幕張総合高校  
千葉県出身



梶山 暁広  
(かじやま あきひろ)  
1班 SL、針生係チーフ  
文学部史学地理学科  
県立八千代高校  
千葉県出身



小寺 達也  
(こでら たつや)  
5班 PL、衛生・気象係チーフ  
文学部史学地理学科  
東京農業大学第一高校  
神奈川県出身



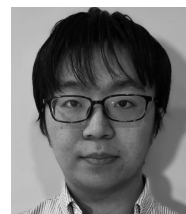
高野 郁弥  
(たかの ふみや)  
5班 SL、装備係チーフ  
文学部史学地理学科  
横浜創英高校  
神奈川県出身



安部 玲音  
(あべ れな)  
5班 SL、編集・広報係チーフ  
総合数理学部現象数理学科  
都立狛江高校  
東京都出身



宮崎 知也  
(みやざき ともや)  
3班 SL、装備・衛生・気象係チーフ  
経営学部経営学科  
杉並学院高校  
東京都出身



山下 和馬  
(やました かずま)  
2班 SL、針生係チーフ  
農学部農芸化学科  
明治大学附属中野高校  
東京都出身

# 新主将挨拶

田口 和巳

この度2022年度の主将を務めさせていただくことになりました。主将として部員たちをまとめ上げ、今年度の執行部方針である「安全登山の遵守」、「部の基盤再建」、「有機的組織の実現」を重視し、部の「継承と改革」を行う所存であります。

昨年度は、新型コロナウイルスの感染拡大の中、活動が制限され、思うように山に登ることができませんでしたが、ようやく、落ち着きが見えてきております。部長先生、監督、コーチの皆様のご尽力、部員の協力のおかげで、2021年では11月、12月と宿泊合宿を行うことができました。現状として私達4年を含むすべての学年において「圧倒的な登山経験不足」という重大な問題が挙げられますが、我々はこの問題に対し、合同トレや個人トレの充美化や技術・知識に関してのオンライン講習会の開催など、この状況下でなができるかということ部員全員で模索し挑戦し続けております。

昨年度、新たに20名弱の新人部員が加わり、現時点で部員数は50名ほどになり、充実した活動を行うことができている。これは、ひとえに先輩方が長年にわたり部の基盤を築いていただいたおかげだと思います。今後は、これまで皆様が築き上げてきた歴史ある部活を守っていくと共に、これまで以上に素晴ら

しい部というものを、部員全員で協力し合い作り上げていきます。

結びになりますが、なため会をはじめ、関係者の皆様からのご支援を一身に背負いながら、皆様が聞いて楽しくなるような元気なご報告ができますよう、部員一同日々精進して参ります。

今後とも明治大学ワンダーフォーゲル部への変わらぬご支援、ご声援のほど宜しくお願い申し上げます。また諸先輩方におかれましてもご健勝であられることを祈念して、私の



ご挨拶とさせていただきます。一年間どうぞよろしくお願いたします。

## 2022年度現役指導スタッフ紹介

- 部長：高橋 信勝
- 監督：諏訪本充弘 (75)
- コーチ：井上 堅一 (106) 岩田 卓也 (265)
- 濱口小百合 (127) 諏訪部貴亮 (128)
- 由水 雅也 (130)

## 現役部員数

準OB	9名	(男8名 女1名)
4年	15名	(男13名 女2名)
3年	15名	(男11名 女4名)
2年	18名	(男12名 女6名)
合計	48名	

## 年間行事予定

令和3年	11月	(臨時) 学年合宿 (済)
	12月	(臨時) 12月合宿 (済)
令和4年	2月	スキー合宿
	3月	春合宿
	5月	新人養成合宿
	6月	初夏フリー合宿
	8月	一年生合宿
	9月	正部員養成合宿
		リーダー養成合宿
		夏合宿 (北陸)

■主務連絡先

井上 遼大 0800-2387-8641  
zwangeru@gmail.com

■山小屋を利用したい方へ

左記の現役小屋係まで連絡願います。

○奥鬼怒山荘(手白小屋)

佐藤 泰雅 0900-2618-3603  
satai187to@ezweb.ne.jp

○針生山荘(針生小屋)

梶山 暁広 0900-7000-1056  
weishang0110@gmail.com

◀料金▶学生5000円 OB10000円  
一般20000円

手白は別に1泊20000円の燃料チャージがかかります(一人でも団体でも20000円)。

注:山荘の使用は小屋係を通しての申し込みが大原則ですので、必ず守ってください。一般のみの使用はできません。OBまたは学生の同行が必要です。



針生山荘に大きな温もり

木馬道会から大型ストーブ他を受領

この度、昭和42年度卒の木馬道会の皆様から、針生山荘のために業務用大型ストーブをいただいた他、各種装備品を含む多大なご寄贈をいただくこととなり、11月28日に贈呈式が行われました。

ご出席いただいた先輩方から当時の活動の生々しいお話をお聞きし、また資料などに触れることができ、現役も大いに刺激を受けました。これからの活動の糧になる事と信じ、この場をお借りして深く感謝申し上げます。



向かって左から BN614石井 OB、BN638森川(松尾)OB、田口主将

■投稿募集のご案内

薫風では幅広い世代の皆様からの投稿をお待ちしています。

【テーマは問いませぬ】

山やワンデルングにまつわるお話などに囚われず、趣味の世界や日常生活でのちょっとした出来事など、あらゆるジャンルのお話をお待ちしています。

※原稿用紙3枚程度にまとめていただけると助かります。

【投稿のスタイルも問いませぬ】

「文章はちよっと…」と思っただけの文章は、お写真だけの投稿も大歓迎です。本誌では「ワンダラーのフォト日記」と題したスナップ写真のコーナーを設けています。簡単なコメントを付けてご投稿いただだけでも十分ですので、是非お気軽にご投稿ください。

【締め切り(2022年)】

第65号(本年7月発行予定)につきつて

期日:6月28日(火) ※必着をお願いします

送付先:広報推進部 井上 稔也(879)

住所:〒176-0022 東京都練馬区向山4-12-16

電話:070-54669-1152

メール:maromaro.marom8@gmail.com



寄贈されたストーブ

# お遍路紀行

BN 594 秋元 道別

秋元OBが8年前70歳になられたのを機に一念発起され、2014年9月から2015年4月にかけて一人歩きで四国遍路に挑戦し、無事に結願された際の紀行文をご提供いただきました。「わっくんの遍路紀行」としてまとめられた小冊子は、結願後に行かれた高野山も含めて130頁に及ぶ労作ですが、今回はその中から幾つかを抜粋してご紹介させていただきます。

## 遍路初日

2014/9/26

一番霊山寺の参道でいきなり接待を受けました。「お遍路さんお茶でも飲んでゆっくりしませんか」遍路の心得や歩き方など色々アドバイスをいただきました。ただ泊まれる通夜堂や善根宿の情報などを沢山いただきました。「おへんろ亭」さんありがとうございました。威風堂々の山門をくぐってお遍路の長い長い旅が始まります。

キャリーを引っ張って歩く遍路道は結構きついです。今日は5番地藏寺まで歩きました。6番安楽寺への道の途中にある溝瀆工務店の善根宿に泊まりました。電話をすると奥さんが出て「どうぞ自由にお使下さい」という返事。今日は一人でのんびり過ごしました。



## お接待

2014/9/27

前で軽トラが急停車。「お遍路さんお遍路さん」と呼び止められ「これ食べてください。お接待です」と大きなブドウを一房いただきました。阿波の方の優しい思いやりに感謝、感謝です。今日は10番切幡寺までの予定でしたが、足に豆が出来て両足を引きずりながらやっとなんと歩いて9番法輪寺でダウンです。近くの空き家で持参のテントを張り泊りました。

遍路2日目です。今日はお世話になった善根宿の溝瀆工務店さんから6番安楽寺、7番十楽寺、8番熊谷寺、9番法輪寺まで参拝して歩きました。熊谷寺近くで信号を渡っていると目の

## 土佐市から須崎市へ

2014/10/27

今日も快晴です。\*レインボいの女将さんの車で36番青竜寺まで送って貰いました。青竜寺は朝青龍が最初に留学した明德義塾のそばにあり、土佐市と須崎市の境付近です。今日は浦ノ内湾を船で須崎市の横波まで行く予定でしたが市役所に巡航時刻の問合せをししたら、小中学生の通学用の船なので、土日祝日は休み。ありや参ったな。この話を聞いたレインボいの女将さんが、お接待で須崎まで車で送ってくれるとのことになり大助かりです。女将さんは須崎の道の駅で買い物があるのでついでですと話していましたが、話は反対で、送ったついでに買い物をするのだと思いました。

須崎から大阪遍路道を目指しましたが雨が雨で通行止め。仕方なく国道53号の長い長い上り坂をキャリーをガラガラと引っ張って登り、やっと四万十町のはずれにたどり着きました。今日は峠越えで体力を使い果たしたので37番岩本寺の手前の雪樺遍路休憩所まで打ち止めにし、民宿の広田さんにごまで迎えに来て貰いました。



途中のお遍路休憩所  
「来る人をもてなし去る人の幸せを願う」

※レインボイ・前日の宿「レインボイ」北壁



溝瀆工務店さんの善根宿

71番 弥谷寺から  
75番 善通寺へ  
2015/4/4

弥谷寺は参道下の駐車場から本堂まで504段の階段があり参拝がけっこう大変でした。次の72番曼荼羅寺近くで11時頃になり食事処を探しましたが見つかりません。寺のそばに讃岐うどんの生麺を売っている店があり聞いてみました。歩き遍路さんには讃岐うどんを接待で食べて貰っていますのでどうぞと、と接待していただきました。ただ、麺を茹でるのに30分くらいかかるので、その間に曼荼羅寺のお参りを済ませて来てくださいと言われ参拝。その間に弥谷寺でも会った仙台からの40代の可愛いお姉さんも来られて、一緒に美味しいうどんをいただきました。うどん屋のおばさんからの情報で、弘法大師が7才の時干ばつで困っている村人を救うために身を投げた捨身ヶ獄本堂で縁日をやっているので行って来なさい、歩く1時間くらいかかるけど、今日は山頂まで送迎してくれるはずと教えて貰い、仙台の方と行ってきました。

今日の宿は善通寺の事務所で紹介していただいた、すぐそばの善根宿「武本」さんです。前回のドライブ遍路の時に善通寺の宿坊に泊まったので、今回は遍路宿で教えて貰った武本さん宅でお世話になりました。夕方オーナーの武本あきこさんがお見えになり、弘法大師のお話を沢山お伺いしました。金剛杖を玄関に立てかけているのを見て、「金剛杖はお大師様の分身です。奇麗に洗って床の間に置いてください」と早速お説教されていました。

武本さんは元高校の英語教師で司馬遼太郎が書いた「空海の風景」という本の英訳文を刊行され、すでに増刷第3刊目になるそうです。善通寺のすぐそばの一軒家の民宿を購入し、空海を慕って来られるお遍路さんに無償で宿を提供されているそうです。

### 結 願

2015/4/18

87番長尾寺前の遍路宿「ながお路」を7時に出発し、6km先の前山おへんろ交流サロンまで頑張って歩き8時には到着しました。交流サロンで遍路大使任命証と遍路パスをいただきました。

ここから88番大窪寺までのコースが本あり、交流サロンのおばさんのお勧めコース、多和神社、来栖溪流、女体山、大窪寺コースを選びました。里山の道、深流沿いの遍路路は緑や流れが奇麗で癒されます。最後の女体山の登りはやはりきつい登りでしたが、距離がわりと短かったのであまり苦勞しないで登り、其処から30分ほど下って88番大窪寺に到着しました。

下り終えた山道の降り口で中年のお遍路さん夫婦にばったり出会い、「結願ですが、おめでとございます。よく頑張られましたね。ご苦勞様でした」と思いがけす声をかけられ、涙ぐんでしまいました。納経所で結願証を書いて貰い、山門側の八十八庵でうどんとビールで祝杯。お疲れ様でした。

ここからは志度駅行のバスに乗り長尾寺で下車。今晚も「ながお路」に泊まります。宿の女将さんがお赤飯を焚いて祝ってくれました。同宿のお遍路さん達もお祝いの祝杯を挙げてくれて楽しい一夜でした。



### ■会員情報等連絡先のご案内

住所変更や慶弔事など、なため会々員の動静は左記の総務部宛にメールまたはファックスにて送信していただくか、あるいは直接担当者までご連絡いたします。

総務部アドレス: [soumu@natamekai.org](mailto:soumu@natamekai.org)

ファックス: 03-55539-4245

大村 研 (1086)

住所:

〒362-0811 埼玉県北足立郡伊奈町西小針4-52

電話: 090-11101-6450

メール: [omura-ken@krdbiglobe.ne.jp](mailto:omura-ken@krdbiglobe.ne.jp)

### 訃 報

BN 489 野村 司OBが2021年7月27日にご逝去されました。

BN 423 紀井辰之助OBが2021年9月21日にご逝去されました。

BN 549 三嶋保郎OBが2021年11月15日にご逝去されました。

BN 490 長嶋園好OBが2022年1月10日にご逝去されました。

ここに謹んでお悔やみ申し上げます。

発行日 二〇二二年一月

編集 住田孔一 猪狩 稔 加藤章一  
高田昌也 井上稔也

発行者 明治大学体育会

印刷所 ワンダーフォーゲル部なため会  
三協印刷株式会社